

令和元年度第1回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和元年10月23日（水）午後1時30分から午後4時まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：健康福祉部長、まちづくり協働課長、高齢者福祉課長（司会）、 高齢者福祉課長補佐、地域支援係長、担当主事（2名）
場所	やすらぎ会館5階 大集会室
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康福祉部長挨拶</li> <li>委員の紹介</li> </ul> <p>2 議事</p> <p>(1) 委員長・副委員長の選任 要綱第5条の規定により、委員長および副委員長は委員の互選により定める。 [基幹型地域包括支援センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度同様、委員長に名古屋学院大学、副委員長に瀬戸介護事業連絡協議会を推薦。 → 委員からの承認が得られた。</li> </ul> <p>(2) 会議について 【資料1】「地域ケア会議ガイドライン」を基に事務局から説明。 〈説明内容〉 本会議は、今年度より、新たな仕組みづくりに向けた政策提言の場として位置付けている。今年度は第1回では地域課題から市全体の課題の発見・共有を行い、第2回で課題を解決する政策提言を行う。</p> <p>(3) 昨年度までの内容確認 【資料2】「平成30年度瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録」を基に事務局から説明。 〈説明内容〉 昨年度は、地域課題から瀬戸市全体の課題の課題として「移動の問題」「買い物支援」「担い手不足」という3つの課題について検討した。 3つの課題は、連動しており、「移動」や「買い物」といった困りごとをより具体化させることによって、困りごとを助ける「担い手」が広がっていくのではないかと。既存の資源と困りごとをマッチングさせていくこと取り組みが必要。</p> <p>(4) 生活支援コーディネーターの報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援コーディネーターの紹介（第1層・第2層）</li> <li>生活支援コーディネーターについて、事務局より説明 〈説明内容〉</li> </ul>

地域における高齢者の生活支援・介護予防の体制整備を推進していくために、調整役として「生活支援コーディネーター」を配置。

その中で、市全体を対象とする「第1層」と、日常生活圏域を対象とする「第2層」があり、本市では、地域包括支援センターを7か所設置しており、第2層をふたば包括担当地区、しなの包括担当地区、包括中央東担当地区の地域性が異なる3か所に配置している。

・ 生活支援コーディネーターからの活動報告

【資料3】を基に第2層生活支援コーディネーターから活動報告。

〈説明内容〉

①ふたば：こうはん連区は町内の多くに集会所があり、地域における自主的な活動が活発な地域。また、地域の企業とも協力しサロンを実施している。サロンの継続で参加者同士の関係性ができ、見守りにつながっている。

②中央東：高齢者の地域の活動は移動の問題にも繋がっており、移動手段がないことは活躍の場が限られてしまうことにもなりうる。古瀬戸地区では地域の声から、地区を選定し、買い物支援を行う予定。

③しなの：買い物支援の相談が多く、日常の買い物について自治会や地区社協、地域の企業とも検討。

【資料3】を基に第1層生活支援コーディネーターから報告。

〈説明内容〉

社会福祉協議会では、地域の声から「よりどころ」プロジェクトの推進や買い物ツアー、地域住民のニーズの把握を行っている。

今年度4月～9月の生活支援コーディネーターの相談内容分類によると、居場所や移動の相談が多くあげられている。

第2層がない地域には、社会福祉協議会として地域担当を設置しており、毎月1回行われる会議にて情報共有を図っている。

居場所を活用した地域の困りごとの聞き取り強化や、より迅速な対応のための各地域での第2層の配置が必要。

免許返納後の移動手段の確保や、地域活動に参加する担い手の不足、地域の居場所づくりが課題としてあげられる。

〈質疑応答〉

[名古屋学院大学]から質問。

- ・ よりどころの一覧はすでに市民向けに公開されているか。また、どのように周知しているか。

[第1層生活支援コーディネーター]より回答。

- ・ 現在は一般向けに一覧の公開はしていない。社会福祉協議会が発行している「そだてよう えがおのたね（社協だより）」にて紹介をしている。

また、一覧については、各地域包括支援センターや介護事業所に配布をしている。

(5) 今年度の課題について

今年度、政策提言につなげる課題を決めるため、各委員で議論。

[委員長]

- ・ 生活支援コーディネーターの報告にあったように、居場所や移動・買い物が課題として取り上げられたが、すべて独立している問題ではない。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ どの課題にも共通しているのは「つながり（コネクタビリティ）」。
- ・ これまでの活動は、狭い範囲で行われているが、大きな場所で常設的に行うことが大切。（例：廃校となった学校等）その場所へ行けば何かがある（趣味や特技を活かせる）場所づくりが必要。

[委員長]

- ・ よりどころが、困っている人と相談できる場所を繋げるとかかりになる。
- ・ 繋がるための物理的な手段として、よりどころに行くまでの足の確保などが重要となるのではないか。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]

- ・ 第1層や第2層は第3層（現場）と繋がるのが大切であり、現状繋がれていないのが問題。
- ・ 足の確保については、障害を持つ方に「足がないと言わないでほしい」という意見を受けたことがある。
- ・ 教室などの集まりについては、男性参加者の人数と継続が問題。女性も参加者が固定化している。

[地区社協会長連絡会]

- ・ 隣とのつながりを強くすることが大きなつながりに繋がる。

[委員長]

- ・ 移動・買い物ができない人は近所で繋がれていない。つながりをつくるためにはどうすればいいか。

[基幹型地域包括支援センター]

- ・ 介護保険は素晴らしいサービスが多く存在しているが、かゆいところに手が届かない部分もある。近所との付き合いによって、行き届かない部分（小さな困りごと）を補う必要がある。気になった時に声をかけられる身近なつながりが必要。
- ・ 移動の問題でも、買い物はできるが移動手段がない人や、近くに行くこともできない人もいる。移動が生活の中のどこで必要か把握できておらず、漠然とした課題となっている。
- ・ 生活の不便さが解消され、地域との繋がるきっかけとなるものが必要。

[委員長]

- ・ 移動手段があるということが外に出るきっかけづくりになる。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]

- ・ 近所の知り合いがいない方は情報を知らない。何も知らない人はどこに相談に行ったらいいかわからない。

[委員長]

- ・ 困っている人を周囲が把握できる状況にすることが必要。

[第1層生活支援コーディネーター]

- ・ よりどころの中で健康麻雀を行っており、男性も女性も取り組みやすい内容となっている。参加者の興味関心をひく内容の把握が必要。
- ・ よりどころ等も地域の人が安心感を持って参加いただけるように周知が必要。

[瀬戸市シルバー人材センター]からの質問。

- ・ 新聞に載っていた「生活支援員養成研修」とは何か。

[事務局]からの回答。

- ・ 市で行う研修に参加することで、介護サービスの中の生活支援訪問サービスに従事することができる。今年度は11月から12月に実施。

[瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ 出かけて、自分がやりたいことのできる生きがいのメニューをつくり、支援していく事が大切。

[副委員長]

- ・ 本人に困り感がなく顕在化していない問題は、時間が経過することで大きな問題になることもある。声なき声をどこまで拾っていくか。

[委員長]

- ・ 次回は生活支援・介護予防サービスについて具体的な提案をお持ちいただき、具体的な政策の提言を行う。

[事務局]

- ・ 意見を持ち帰り、委員長、副委員長と協議の上改めて課題の共有を行う。

### 3 その他

事務局より次回の会議の案内。2月中旬から下旬の開催を予定。

### 4 閉会